

つながるころ ちからをあわせ はじけるえがお しあわせいっぱい



つちはし

しあわせのシンボル

かわさきしりつつちはししょうがっこうこうちよう よしの あきこ
川崎市立土橋小学校校長 吉野 晶子

先日、梅雨入りをした地域について報道されていました。関東地方の梅雨入はもうしばらく先のように
すが、今年はずっきりしない空模様の日が多いように感じます。このような天候の日々を「走り梅雨」と呼
そです。これからは気温も高くなってきますので、熱中症対策にも気を付けていきたいと思ひます。

この季節になると街中でシロツメクサが葉を増やし、可愛らしい白い花を咲かせています。この花を見
ると、子供の頃に花を摘んで腕輪や冠を作って遊んだことを懐かしく思い出します。実は本校の校庭や
ふれあい広場にもたくさんのシロツメクサが生えています。シロツメクサの葉は通常3枚ですが、4枚や5
枚、それ以上の場合があります。4枚の場合は「四葉のクローバー」と呼ばれています。それぞれの葉には「希
望」「幸福」「愛情」「健康」の意味があるそうです。以前、朝会でこの「四葉のクローバー」と呼ばれるよ
うになった由来の1つとして、フランスの英雄ナポレオンによる戦場での出来事について話をしたことが
あります。その話を覚えてくれている子供たちが、この季節になると「見つけました!」「しあわせのシンボ
ルを届けに来ました!」と校長室に四葉のクローバーを持って来てくれます。子供たちから届いた「しあわ
せのシンボル」は押し花にして校長室の入り口に掲示しています。毎年、校長室の入り口がしあわせいっ
ぱいになっていくのがとても楽しみです。

さて、コロナ禍を経て、アップデートされたもののひとつに朝会の実施方法があります。コロナ禍以前は
全校児童が体育館に集まって行われていましたが、コロナ禍となり「密」を避けるためにテレビ朝会を
行うようになりました。実はこの方法が様々な点で良いことがわかりました。例えば①夏や冬の厳しい寒
暖の際に子供たちの体に負担が少ないこと②自分の席で集中して話を聞くことができるため、内容が
伝わりやすいこと③1000人以上となる子供たちの移動時間がないため、1時間目の授業に影響が少な
いこと等です。一方で全校児童が一堂に会して行う朝会も大切だということから、表彰朝会のときだけ
全校児童が体育館に集まることになりました。当たり前に行われていた教育活動について、コロナ禍によ
って気づき、良いと思われたものはコロナ禍後も継続していきたいと考えています。

今年度がスタートして2ヶ月が経ち、6年都内見学や5年自然教室が無事に実施されました。5年自然
教室は学年児童全員が参加し、自然豊かな八ヶ岳少年自然の家にて充実した2泊3日を過ごすことが
できました。これからも多くの実体験を通して、より豊かな学びにつなげていきたいと思ひます。